

平成26年度 島田市事業仕分け結果に対する市の取組実績及び今後の取組スケジュール

事業No.	事業名	所管課	H28		H29 事業費 (千円)	評価結果	委員の意見	今後の取組内容 ※平成26年度現在	取組実績及び今後の取組スケジュール			
			事業費 (千円)	決算額 (千円)					取組実績			今後の取組スケジュール
									H26	H27	H28	
1-1	行政番組放送事業	広報課	12,200	12,200	12,000	市が実施 (要改善)	<p>【株FM島田の経営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●経営方針についてFM島田と市の意思統一が必要 ●財政的援助の仕組みの確立と財務状況の改善が必要 <p>【行政番組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●若い人たちにとって魅力ある番組内容の提供が不可欠 <p>【災害時の情報提供等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●災害時に、コミュニティFMとしてのきめ細やかな情報提供を望む。 	<ul style="list-style-type: none"> ●経営方針について会社と話し合いを持ち、齟齬をなくしていく。 ●経営面については、厳しい状況であることを会社にも認識してもらい書面による経営計画で赤字から黒字に転じる経営計画を提出してもらい実行していく。6年目の第三セクター解消を目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> ●市民と市民が繋がるコミュニティ媒体としてFM島田を活用した行政番組を作成していく。 <ul style="list-style-type: none"> ●防災協定に基づき、FM島田による市民ニーズに応じた情報発信を行う。 ●防災訓練でFM島田を活用した訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●株式会社として自立した経営が図れるようH27～31の5か年間の経営計画を提出してもらい、実行中。市は、行政番組を制作する経費のみ支出。 <ul style="list-style-type: none"> ●H27年度放送番組に向けて協議を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ●大雨、台風時等における緊急情報発信のための放送を実施した。(10月に2回) 	<ul style="list-style-type: none"> ●株式会社として自立した経営が図れるようH27～31の5か年間の経営計画に沿って運営。市は、行政番組放送の経費(広告料)を支出している。 <ul style="list-style-type: none"> ●広報はまだ、HP、FMの3つの広報媒体が連携した番組を放送 <ul style="list-style-type: none"> ●随時、台風等の非常時における緊急放送を行うことを確認し、9月9日の台風18号に係る緊急情報を放送した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●株式会社として自立した経営が図れるようH27～31の5か年間の経営計画に沿って運営。市は、行政番組放送の経費(広告料)を支出している。 <ul style="list-style-type: none"> ●広報はまだ・HP・FMの3つの広報媒体を連携し、番組を放送 <ul style="list-style-type: none"> ●随時、台風等の非常時における緊急放送を行うことを確認 	<ul style="list-style-type: none"> ●5か年計画に沿いながら自立を促していく。 <ul style="list-style-type: none"> ●行政番組放送の内容についてPDCA管理を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ●防災協定に基づいた情報発信を行う。
1-2	超短波放送難聴対策事業	広報課	8,563	8,261	7,056	市が実施 (現行のまま)	<p>【難聴地の解消】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●難聴地には高齢者が多く居住しており、聴取できるシステムの構築を、今後さらに推進していくこと。 ●災害時に備え必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●今後、送信所の増設は経費的に難しいので、サイマル放送の利用方法の周知推進と、防災訓練などでは、サイマル放送を聴くことが出来る人が出来ない人へ聴かせてあげるような訓練の組入れを提案していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●サイマル放送について、広報紙、FB等で周知した。 <ul style="list-style-type: none"> ※「サイマル放送」一つの放送局が同じ時間帯に同じ番組を、異なる放送媒体等で放送すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ●サイマル放送について、広報紙、FB等で周知するとともに地域防災訓練時に各自主防からPRを行ってもらうようにはたらし掛けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●サイマル放送について、広報紙、FB等で周知を図っている。 ●市は、市所有送信所の老朽化に伴う修繕を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●株FM島田は番組内でサイマル放送の利用について周知を図る。 ●株FM島田は、災害時も円滑な放送ができるよう送信所の管理を行う。
		総務課	848	0	180,000		<p>【光ファイバー計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●光ファイバーの計画をお願いしたい。(大長地区) <p>※FM島田の番組をインターネットで放送しており、インターネット環境が整備されていない大長地区について、「光ファイバー計画」の要望があった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●光ファイバー化計画については、引き続き通信事業者へ強く働きかけていくとともに、国・県の情報通信政策の動向や、他の自治体の取り組みを注視していく中で、補助制度の活用などについて検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●通信事業者への働きかけを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●通信事業者への働きかけを行った。 ●平成27年度実施計画を計上した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●平成28年9月議会で光ファイバ網整備事業費補助金を補正予算計上し、平成29年度債務負担行為の設定をした。 ●民間通信事業者の整備提案を公募、審査し、整備事業者を選定した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●光ファイバ網整備事業の実施(平成29年度事業) ●光ファイバ網の需要喚起を図るため、整備完了前に各地で説明会を実施し、活用方法等を周知する。 ●未整備地域については引き続き通信事業者へ提案を求め、実施可能な提案に必要な支援を検討し全域整備を目指す。
2	島田市商工会補助金	商工課	25,300	25,300	25,200	市が実施 (要改善)	<p>【補助制度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●補助対象を明らかにし、運営費補助から事業費補助に変更すべき。 ●補助内容を審議し本当に必要なものだけに補助すること。 ●繰越金の確認をしてほしい。 ●補助金を減らす前提で議論してほしい。 ●事業の効果が見られない。 ●商工業者は自前で事業をやるのが原則 	<ul style="list-style-type: none"> ●補助金の交付方法を事業費補助へ移行し、補助対象事業及び事業効果を明確にしていく。事業内容を精査し、申請方法や効果測定方法について協議・検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●運営費補助から事業費補助へ移行するよう商工会と協議した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業内容の精査と申請方法等について協議した。また、平成28年度から事業費補助へ移行するよう準備が完了した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業費補助として実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●補助内容の検証
							<p>【商工会議所との合併】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事業内容が商工会議所と重なる部分がかかなりあるため、合併を強く進め無駄を省くべき。 ●「オール島田で商工業者を支援する協定」を生かし、よりよい方向へ行くようしっかり話し合うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ●島田市商工会と島田商工会議所の同様な事業について、連携(合同)して実施できるよう働きかけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●島田市、島田商工会議所、島田市商工会、島田信用金庫が島田市中小企業支援協議会を設立し、連携して中小企業支援事業を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●設立からの経緯や方針の違い等があるが、必要に応じて商工会と商工会議所が連携して事業を実施するよう継続的に調整していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●島田商工会議所、島田市商工会、島田信用金庫が連携して産業支援センターを設立し、関係者が連携しながら中小企業支援を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●中小企業支援協議会により、商工会議所と商工会が連携して事業を推進していく。

事業No.	事業名	所管課	H28		H29 事業費 (千円)	評価結果	委員の意見	今後の取組内容 ※平成26年度現在	取組実績及び今後の取組スケジュール			
			事業費 (千円)	決算額 (千円)					取組実績			今後の取組スケジュール
									H26	H27	H28	H29以降
3	観光振興事業	観光課	10,553	9,182	18,712	市が実施 (要改善)	【情報発信】 ●パンフレットはこれからはあまり必要ない。ホームページ・ネットを活用してほしい。	●効果的な観光情報の発信に取り組む。	●島田市観光協会のホームページリニューアルの検討を行った。	●島田市観光協会のホームページのリニューアルを実施し、多言語化のポータルサイトも作成し、インバウンド対応を行った。	●効果的な情報発信に努めた。	●引き続き効果的な情報発信に努める。
							【観光資源】 ●市民の視点で地域資源を発掘し集約してPRすることが、市外からの集客につながる。 ●蓬莱橋で物販(みやげ)ができるように。渡り切った所に観光スポットが欲しい(ストーリー作りが必要)。	●地域資源を活用した体験型観光の検討を行う。 ●地域資源を活用した観光振興について、関係団体などと検討を行う。	●体験型観光を活かした事業の検討を行った。	●大井川で逢いましょう実行委員会を設立し、体験型観光に関する事業を実施した。その他、中部5市2町によるDMO組織の設立準備を行った。	●大井川で逢いましょう実行委員会を開催し、体験型観光に関する事業の検討を行った。静岡県中部・志太榛原地域DMOによる事業を検討した。 ●島田市大井川ミズベリング協議会を設立し、蓬莱橋周辺団体と物販に関する協議を行った。	●事業の継続
							【運営】 ●市の発展のために観光は有効。さらに人や資金を投入して拡大していくことが必要。	●空港や高速道路など主要な交通インフラを活かした広域観光振興事業に取り組む。	●3市1町広域観光連携協議会や、富士山静岡空港周辺地域観光振興研究会の事業実施により広域観光の振興を図った。	●3市1町広域観光連携協議会、富士山静岡空港周辺地域観光振興研究会、川根本町との大井川流域の連携強化による事業を実施した。	●3市1町広域観光連携協議会、富士山静岡空港周辺地域観光振興研究会、川根本町との大井川流域の連携強化による事業を実施した。	●事業の継続
4	島田市観光協会補助金	観光課	51,400	51,400	58,000	市が実施 (要改善)	【補助制度】 ●市の補助金が観光協会を経由して他の団体に補助として渡されるならば、その団体に直接補助するのが妥当 ●イベント等を外注している場合、金額・内容等のチェックをすること。 ●補助するお祭りを選別し、補助対象の規模を縮小することも考えてはどうか。 ●自主財源確保により、より主体性をもった運営指導に努めて頂きたい。 ●他の事業と重複している(パンフレット)。運営事業費の減額が必要	●イベントの開催について協議を行う。 ●自主財源の確保について、先進地の事例など調査・研究を行う。 ●事業内容の検討及び見直しを行う。	●観光パンフレットの作成については、観光協会とすみ分けを行うよう検討した。 また、観光協会の事業内容の見直しを反映した予算編成を行った。	●観光パンフレットの作成については、観光協会とすみ分けを行い作成を行った。 ●島田市総合観光パンフレット島田歩紀日本語17,000部	●観光パンフレットの作成については、観光協会とすみ分けを行い作成を行った。 ●島田市総合観光パンフレット島田歩紀日本語10,000部 繁体字2,000部 ●観光協会による蓬莱橋での試験物販など、自主財源確保に向けた取組みを行った。 ●財源の確保のため、金谷茶まつり、島田蟹まつり等のイベントでの物販を行った。	●事業の継続 (必要に応じて事業の改善)
							【情報発信】 ●観光客は事前に調べて来るので、紙のパンフレットはあまり必要ではない。ホームページを充実させる方向で検討してほしい。	●ホームページのリニューアルや、近年普及してきたSNSを活用した情報発信を検討する。	●島田市観光協会のホームページリニューアルの検討を行った。	●島田市観光協会のホームページのリニューアルを行った。	●島田市観光協会のホームページの効果的に運用を行った。	●引き続き効果的な情報発信に努める。
							【運営】 ●観光協会の事業と市の観光課の事業に重複している部分が見られるので、統合や移管によって効率よく実施していくこと。 ●企画から実務まで行える人材育成が必要。 ●市民を説得できる企画かどうか、プレゼンテーションをやる必要がある。	●観光協会の運営体制を検討し、機能的な人員配置に努める。 ●関係団体との連携による運営体制の協議を行う。	●関係団体との連携による運営体制の見直しを検討した。	●自主財源の確保のため、花火大会等のイベントでの物販を行うとともに、その他の財源確保に繋がる事業の検討を行った。	●専門人材の登用について検討を行った。	●事業の継続

事業No.	事業名	所管課	H28		H29 事業費 (千円)	評価結果	委員の意見	今後の取組内容 ※平成26年度現在	取組実績及び今後の取組スケジュール			
			事業費 (千円)	決算額 (千円)					取組実績			今後の取組スケジュール
									H26	H27	H28	H29以降
5	島田市にぎわい商店街支援事業補助金	商工課	1,500	1,454	1,500	市が実施 (要改善)	<p>【補助制度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●補助対象メニューをニーズを踏まえたものに改正する必要あり。 ●単なる一時的なイベントではなく、商店街の育成のための投資に振り向けるべき。 ●商店街のにぎわい創出のため、市民が支援を受けられるような制度に改正を。 ●商店街へのリピーターの獲得につながるような企画かどうかを審査基準にし、売上げにつながったかどうかの検証を行ってほしい。 ●他の事業との重複がないかチェックが必要。 <p>【利用率の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●商店街の数と対比して利用率が低い。PRすると共に、商工会、商工会議所と連携して進めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ●関係機関(商工会議所、商工会、商店街連合会等)から意見聴取を行い、制度を見直していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業仕分けの結果を踏まえ、関係機関との連携、意見聴取を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●単発の売出しイベント等は対象外とし、事業効果の検証を行うよう改善した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●改善内容を踏まえ、補助事業を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の継続
6	勤労者住宅資金利子補給金	商工課	11,500	10,307	10,224	市が実施 (要改善)	<p>【対象金融機関の限定】【事業の効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●なぜ労金だけが対象か不明。1970年代は、労働政策として価値はあったかもしれないが、現在、各金融機関が制度を充実させており、事業の対象としても不明。 ●労金だけが対象というのは不平等感がある。 ●人口が定住したかの調査が必要 ●他の魅力的な制度の構築を考えるべき。 ●補助金の効果として、利子補給額が少額であり、適切かどうかを研究する必要がある。補助制度と協調融資制度について、それぞれの効果を研究する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●勤労者福祉の増進施策として何が必要か、関係団体と協議・検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●新制度の創設を含め、労金及び労働者団体との協議・検討を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●平成27年度までで新規受付を終了とし、平成37年度いっぱいまで全ての利子補給を終了し、制度を廃止することとした。 	<ul style="list-style-type: none"> ●新規受付は終了した。 ●平成37年度いっぱいまで全ての利子補給を終了し、制度を廃止することとした。 	<ul style="list-style-type: none"> ●廃止した影響の把握
7	がんばる認定農業者支援事業	農林課	20,000	17,030	20,000	市が実施 (現行のまま)	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●6次産業化等を推進するうえで、別メニューの研究が必要 ●キャンセル待ちが24件あり、支援を拡大することが有効(支援期間の延長が必要)。増額の方向で進めるべき。 ●JAと協力して認定農業者を増やすよう努めてほしい。 ●若者の就農に力を入れてほしい。 <p>【事業の効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●5年間の効果をあらゆる角度で検証すること。毎年、予定と実績の管理を行う必要あり。 	<ul style="list-style-type: none"> ●認定農業者を対象とした支援であり希望者が多いため、事業の継続について検討する。 		<ul style="list-style-type: none"> ●事業の継続について検討し、アンケート調査の準備を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●アンケート結果に基づき、事業の見直しを行った結果、同内容で実施することとした。 ●新規就農者対象の認定新規就農者支援事業を実施した(2人が事業実施)。 	<ul style="list-style-type: none"> ●新たな事業を実施する。 ●認定新規就農者支援事業の継続
8	茶振興事業	農林課	16,670	16,281	13,000	市が実施 (要改善)	<p>【運営】【補助金】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事務局の運営を市のみならず、JA・茶商にも出来る範囲で担わせる必要がある。組織構成員に消費者団体等も加えるなど、永年にわたる消費拡大への取り組みを効果あるものとして、着実に展開する体制が必要 ●茶業振興協会の企画力を高める体制の整備が必要ではないか。 ●市を退職した人又は茶業に精通した人(60歳以上・ボランティア)を採用できないか。 ●必要ならば組織を再編する。 ●毎年同じ事業をやるのではなく、不用なものは省き、もう一度見直して頂きたい。PRばかりでなく、茶の生産者への補助が必要。PRについても呈茶や景品だけでなく、また、PR対象も国内だけでなく、海外(パリやイスラム)に目を向けて振興に取り組んでほしい。 ●支部の経費に別途JA・茶商から補助金が支出されているが、当該経費は茶業振興協会の事業である以上、茶業振興協会本体の会計の中にも含める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●茶業は本市の基幹産業であり、茶文化の振興も含めて市が積極的に関与していく。 ●茶業振興協会の事業及び会計については、協議会において協議する。 ●農地集積事業や茶園基盤整理事業などの他の農業関連補助事業と連携し、茶業振興に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●農業関連補助事業(荒茶加工機械、乗用型摘採機)を実施した。 ●茶園基盤整備の検討を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●農業関連補助事業(荒茶加工機械、防霜ファン)を実施した。 ●茶園基盤整備事業(西原地区)に着手した(組合設立)。 	<ul style="list-style-type: none"> ●茶振協新規事業(緑茶化計画、海外出展等)の実施 ●茶振協(組織・事業費)の比較調査(牧之原市) ●茶園基盤整備事業(西原地区)の実施(工事) ●島田市碾茶研究会の設立 	<ul style="list-style-type: none"> ●茶振協運営等の協議結果の反映 ●農業関連補助事業の実施 ●茶園基盤整備事業(西原地区)の実施(換地) ●茶園基盤整備事業(新地区)の実施(工事)

事業No.	事業名	所管課	H28		H29 事業費 (千円)	評価結果	委員の意見	今後の取組内容 ※平成26年度現在	取組実績及び今後の取組スケジュール			
			事業費 (千円)	決算額 (千円)					取組実績			今後の取組スケジュール
									H26	H27	H28	H29以降
9-1	コミュニティバス運行管理事業	生活安心課	227,418	211,513	243,564	市が実施 (要改善)	<p>【運営・路線】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●重複している路線や、利用者の少ない路線は運行数を減らしたり、通勤通学時以外の日中等の減便を検討すること。 ●経費が年々増大していく一方で、利用者数が減少しているという現状から考え、路線の廃止や縮小は止むを得ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の移動手段として、効率的かつ経済的な運行方法を検討し、持続可能な公共交通体系を構築する。 ●既存路線の整理、統廃合(現在、取り組み中) ●路線見直しを検討している地区への説明会の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ●見直し案を作成した。地区への説明は下記のとおり。 金谷地区 1回 伊久身 3回 特養とこは 1回 	<ul style="list-style-type: none"> ●地元等主体とした交通空白地区の新たな交通手段の構築に伴うワークショップを実施した。 伊久身地区 2回 ●路線見直しに伴う地区への説明会を実施した。 伊久身地区 1回 川根地区 2回 相賀地区 1回 稲荷町 1回 河原町 1回 伊太 1回 金谷地区 2回 	<ul style="list-style-type: none"> ●アンケート調査の集計を行い、バス路線見直しの参考とした。 ●利用者の実態をもとに、時刻・経路の調整を行った。 	●利用状況等検証
9-2	バス路線運行維持助成経費	生活安心課	28,317	24,274	27,632	市が実施 (要改善)	<p>【運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●乗り合いタクシーやワンボックスカーの導入など、色々な形態について研究する価値がある。 ●経費増大の一方で利用者減少という現状の中では縮小や統合は止むを得ないが、その中でも市の保有する車両を活用するなどして運行レベルを下げない工夫をお願いしたい。 ●金谷地区にはスクールバスが3台あるので、萩間線・勝間田線の金谷小通学利用児童はそちらを利用するほうがよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●萩間線・勝間田線は、他市との共同運行であるため、単独では決定できないが、牧之原市、菊川市と協議する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●5/28 牧之原市、御前崎市、菊川市、しずてつジャストラインとの連絡調整会を開催した。 路線を継続した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●萩間線・勝間田線について、5/18 牧之原市、御前崎市、菊川市、しずてつジャストラインとの連絡調整会を開催した。 路線を継続した。 勝間田線について、廃止の検討を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●萩間線・勝間田線のH29の年末の運行について、2/14に牧之原市、御前崎市、菊川市、しずてつジャストラインと連絡調整会議を行った。 萩間線は12/29～1/3までの運行について、土日祝運行に変更、勝間田線は12/29～1/3まで運休に変更となった。 	●協議の継続

事業No.	事業名	所管課	H28		H29 事業費 (千円)	評価結果	委員の意見	今後の取組内容 ※平成26年度現在	取組実績及び今後の取組スケジュール				
			事業費 (千円)	決算額 (千円)					取組実績			今後の取組スケジュール	
									H26	H27	H28	H29以降	
10	スクールバス運行経費	学校教育課	39,532	36,791	43,554	市が実施 (現行のまま)	<p>【運営・路線】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒の利便性を最優先し、可能な限り縦割りを脱して効果・効率的な運行を。 ●施設管理(アセットマネジメント・イールドマネジメント)の考えで調査研究すること。 ●金谷地区は萩間線・勝間田線を通っている子どもを乗せるなど、ルートを検討すること。 ●川根地区については、4地区をもう一度見直し、バスの台数減や、コミュニティバスとの連携を検討すること。 <p>※「アセットマネジメント」とは、会社の投資などの、資産管理のこと。「イールドマネジメント」とは、収益を管理すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●スクールバスの各運行路線について、より効率的な運行方法がないか、市民安心課や運行業者と連携しながら検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニティバスの地元説明会に参加し、地元の要望を把握した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニティバス担当課と連携し、鍋島地区において、スクールバスとコミュニティバス試行線との共用運行が可能な計画を策定した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニティバス担当課と連携し、鍋島地区において、スクールバスとコミュニティバス試行線との共用運行を実施した。 ●川根地区において、コミュニティバスとスクールバスの乗継ができる運行計画を実施した。 ●金谷地区において、登校便のルートの見直しを行い、所用時間と運行台数を縮減した。 ●金谷地区において、保護者アンケートを実施し、現状・要望等を把握した。 ●金谷地区において、路線バス(勝間田線・萩間線)を利用する児童生徒をスクールバスで対応することを検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●スクールバスを運行する地区において、運行経路の効率化を図るとともに、コミュニティバス担当課と連携し、スクールバスへの住民混乗が可能か検討していく。 ●金谷地区において、路線バス(勝間田線・萩間線)を利用する児童生徒をスクールバスで対応する。 	
							<p>【設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●バス購入の際は、児童数に見合った大きさのものにすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ●更新するバスについては、利用する児童生徒数の規模に応じたものにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●小型バス1台を購入した。対象地区児童生徒数に合わせ、乗車定員は29人。 	<ul style="list-style-type: none"> ●中型バス1台を購入した。対象地区児童生徒数に合わせ、乗車定員は45人。(金谷地区) 	<ul style="list-style-type: none"> ●中型バス1台を購入した。対象地区児童生徒数に合わせ、乗車定員は45人。(金谷地区) 	<ul style="list-style-type: none"> ●車輦状況や経過年数、児童生徒数を考慮し、バスを更新していく。 	
11	企業立地促進事業費補助金	内陸フロンティア推進課	14,000	14,000	128,600	市が実施 (要改善)	<p>【補助制度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●職員の人員不足を感じる。鳥田のウリ(水)を生かし重点的にアプローチすること。市の一般財源による負担は1/2で済むため(特定財源・県支出金1/2)、今後も補助を実施すべき。メニュー構成を戦略的にし、適時見直しが必要 <p>【事業の効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●費用対効果の把握がされていない。効果(税収等)を検証できる仕組みを作ることが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域に根ざした優良企業を優位に誘致できるよう、成長分野企業や内陸フロンティア推進区域内での立地に対する補助率のかさ上げを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●補助制度の改正を検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●H27.4.1に要綱等を改正し、補助率の嵩上げを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の継続 	<ul style="list-style-type: none"> ●更なる誘致を促進するために、雇用補助率の見直し等、補助金の拡充を検討していく。 	
							<p>【実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●民間、市民団体の利活用を促進すれば、事業費削減につながる。 <p>【委託契約の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●最も安い業者を選定して随意契約しているのであれば、入札により透明化を図るべき。 ●収支報告書等でお金の流れを確認したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●公園管理事業の実施可能な業者を選択(市内外) ●新規の公園愛護会の設立を促していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●公園管理事業の実施可能な業者を2者選択した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●公園管理事業の実施可能な業者を2者選択した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●公園管理事業の実施可能な業者を2者選択した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●選択の継続 ●未設立地区への設立を要請 	
12-1	公園管理事業	市街地整備課	59,765	59,400	60,375	市が実施 (要改善)		<ul style="list-style-type: none"> ●指名競争入札の実施を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●指名競争入札を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●指名競争入札を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●指名競争入札を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●指名競争入札を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の継続(必要に応じて見直し)

事業No.	事業名	所管課	H28		H29 事業費 (千円)	評価結果	委員の意見	今後の取組内容 ※平成26年度現在	取組実績及び今後の取組スケジュール			
			事業費 (千円)	決算額 (千円)					取組実績			今後の取組スケジュール
									H26	H27	H28	H29以降
12-2	公園管理事業(ばらの丘公園)	市街地整備課	10,286	10,286	12,000	市が実施 (要改善)	<p>【入園者数の増加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●イベント等の開催時に民間団体を参加させたらどうか。 ●周辺観光資源との面的な連携等が必要 <p>【PR】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●PR不足。将来的に運営難により事業費増とならないよう、次の手が必要。イベント時にボランティアを活用したらどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●フェスタ期間等について、民間イベントの参画を検討していく。 		<ul style="list-style-type: none"> ●フェスタ期間の各団体によるミニコンサートに加え、「ばらと炎のカーニバル」を実施した。 ●焼津さかなセンターや大井川鉄道のSL旅行にばらの丘公園を組み入れてもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●フェスタ期間の各団体によるイベントに加え、「クリスマス花火ショー」を開催し、ダンス、ゴスペル等を実施した。 ●静岡県中部地区観光連絡協議会に加盟し、観光情報を発信するとともに、加盟している各施設と連携をとっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●イベントの継続(必要に応じて見直し)
13	島田商工会議所補助金	商工課	5,800	5,800	5,800	市が実施 (要改善)	<p>【補助制度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●使途が不明確な運営費補助は改善の余地がある。 ●依存度(事業費に占める補助金の割合)の低い補助金、例えば10%以下のケースでは返上を考えてもよいのではないか。 ●商工は産業の要であるため、カットはあまり望まない。 <p>【商工会との合併】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●商工会との統合について検討すべきと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●補助金の交付方法を事業費補助へ移行し、補助対象事業及び事業効果を明確にしておく。事業内容を精査し、申請方法や効果測定方法について協議・検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●運営費補助から事業費補助へ移行するよう商工会議所と協議した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業内容の精査と申請方法等について協議した。また、平成28年度から事業費補助へ移行するよう準備が完了した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業費補助として実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●補助内容の検証
14-1	島田産業まつり補助金	商工課	2,250	2,250	2,250	市が実施 (要改善)	<ul style="list-style-type: none"> ●市の介入割合を下げて、自主的な運営を目指すべき。 ●各まつりを組み合わせて、より大きな効果を目指す検討を。 ●金谷、川根地区の方も参入したらどうか。 ●産業PRのための見せ方の工夫が必要 ●満足度調査は必須 	<ul style="list-style-type: none"> ●実行委員としての市の関わりは継続しながら、実行委員会のあり方やイベント内容について、協議・検討していく。 ●金谷、川根地区からの事業者の参加が増えるよう、呼びかけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●組織体制やイベント内容の見直しの実施について、実行委員会へ要請した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●組織体制やイベント内容の見直しの実施について、実行委員会へ要請し、金谷、川根地区の事業者への出展を呼び掛け、出店者を増やした。 	<ul style="list-style-type: none"> ●イベント内容の見直しの実施について実行委員会へ要請した。 ●市内全体を対象に事業者の出展を呼び掛けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●前年度の反省点を踏まえ、内容を改善していく。 ●引き続き、金谷、川根地区の事業者へも出展するよう、働きかけていく。
14-2	島田夏まつり補助金	商工課	1,350	1,323	1,350	市が実施 (要改善)	<ul style="list-style-type: none"> ●市の介入割合を下げて、自主的な運営を目指すべき。 ●各まつりを組み合わせて、より大きな効果を目指す検討を。 ●商店街連合会主導から開かれた実行委員会にして、集客力向上へ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●実行委員としての市の関わりは継続しながら、実行委員会のあり方やイベント内容等について、実行委員会以外の人々のアイデアや意見も取り入れるよう、働きかけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●組織体制やイベント内容の見直しの実施について、実行委員会へ要請した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●組織体制やイベント内容の見直しの実施について、実行委員会へ要請した。また、来年度、役員若返りを図ることとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●役員若返りが図られた。また、新たに実行委員会以外の方が主体となって、お化け屋敷が開催されるなど内容の改善を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●実行委員会以外の人やアイデアを取り入れながら、前年度の反省点を踏まえ、内容を改善していく。
15	田代の郷温泉管理運営経費	観光課	5,970	5,303	3,961	市が実施 (要改善)	<ul style="list-style-type: none"> ●開業～H23.4月の源泉記録が紛失。管理体制に問題あり。指定管理を目指しているが、現状の運営体制の情報開示も不十分。改修の方向性(川根よりの温泉輸送をやめ、ナノ・バブル湯に切り替え)も効果に疑問あり。 ●早急な取支改善が必要。市職員人件費の削減はできないか。修繕費、設備投資額が多額で頻繁な支出であり、具体的な事業計画が必要。 ●施設が離れたところにあるので、観光客が市内を循環するルートの工夫が必要 ●計画的に指定管理導制度に移行すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ●平成28年度から指定管理者制度を導入する予定 ●源泉、施設、設備機械の定期メンテナンスを計画的に行い、施設全体の長寿命化と管理・運営体制の充実を図る。 ●近隣施設の連携及び情報発信の強化に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●平成28年度からの指定管理者制度導入に向けて、条例改正案、募集要綱案を作成した。 ●大井川流域の観光施設によって任意団体(大井川流域手をつなごう会)を立ち上げた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●指定管理者を決定し、協定書を締結した。平成28年4月からの移行に向けての引継を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●指定管理者との月例定例会の開催等により、密接な関係を図り、指導・助言を行っている。施設改修等を計画的に実施している。入館者は前年度に比べて6,022人増加となった 	<ul style="list-style-type: none"> ●効果検証及び指定管理者への指導・助言を実施する。利用者の増加に繋がる取組を行う。

事業No.	事業名	所管課	H28		H29 事業費 (千円)	評価結果	委員の意見	今後の取組内容 ※平成26年度現在	取組実績及び今後の取組スケジュール				
			事業費 (千円)	決算額 (千円)					取組実績			今後の取組スケジュール	
									H26	H27	H28	H29以降	
16	森林施業補助事業	農林課	30,350	25,867	35,108	市が実施 (要改善)	<ul style="list-style-type: none"> ●いっそうの公的援助が必要。また林業の先行きが危機的な状況を考えると、設備投資型から人材育成・確保型への援助のシフトが必要 ●将来を見据えた整備方針を明確にし、進めることが重要 ●間伐材の利用を増やす努力が必要 ●木都への巻き返しをするつもりで、島田市としての政策を組み立て直してはどうか。 ●「県補助への積み増し」が最も有効な方策なのか疑問 ●森林は全住民が受益者となる基礎インフラであり、市民の理解を深める広報が重要 	<ul style="list-style-type: none"> ●県や林業事業者等と協議を行い、新たな補助制度が必要かどうかを検討する。 ●森林が持つ公益的機能の確保のためにしている間伐等の森林整備に対する公的支援の必要性を市民にホームページ等を通して積極的にPRする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●既存の補助制度の見直しを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●県及び林業事業者との協議を行った。 ●新たな補助制度の検討を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●県及び林業事業者との協議し、新たな補助制度を創設した。 ●港区が実施する国産木材利用促進事業の「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」への加入した。 ●県及び近隣市町と森林認証(FSC)の取得について検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の継続(数年若しくは森林整備計画の変更時に事業内容の再検討を行う。) ●みなとモデル二酸化炭素固定認証制度に、市内事業者の登録を促し、利用促進を図っていく。 ●H29年度当初、F-net大井川おおいがわに参加した。今後は森林認証(FSC)の取得を進めていく。 	
17	勤労者教育資金利子補給金	商工課	1,000	898	950	市が実施 (要改善)	<p>【対象金融機関の限定】【事業の効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●勤労者の福利厚生の性格よりは教育施策としての充実が必要。教育費という観点から、個人事業主、会社役員に対して市の援助がないのは不公平に感じる。労金限定は改善すべき。 ●制度の見直しが必要。 ●効果に疑問。もっと困っている人に向けた、まとまった支援の方が効果的で、給付型の奨学金の紹介などがよい。勤労者には別の支援が必要。 ●財政困難下で薄く広い補助金を存続する必要性には疑問を感じる。 ●本当に必要な人を助ける仕組みの構築が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●勤労者福祉の増進施策として何が必要か、関係団体と協議・検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●新制度の創設を含め、労金及び労働者団体との協議・検討を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●平成27年度までで新規受付を終了とし、平成37年度いっぱいまで全ての利子補給を終了し、制度を廃止することとした。 	<ul style="list-style-type: none"> ●新規受付は終了した。平成37年度いっぱいまで全ての利子補給を終了し、制度を廃止することとした。 	<ul style="list-style-type: none"> ●廃止した影響の把握 	
18	放置自転車対策事業	生活安心課	5,279	4,889	5,633	市が実施 (要改善)	<p>【告知・啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●目に見える場所に告知等をしっかり行うこと。 ●「規制区域であること」や「放置をしないこと」等、啓発活動を積極的に行うこと。 ●「障害者にとって放置自転車は危険」という観点からの啓発方法を考えること。 <p>【実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●放置台数と放置箇所が限定されてきているので、ポイントをしばって実施すること。 ●引き取りにこない自転車については、スクラップや中古業者への売却の検討も必要 ●更なる改善のためには、事業者との連携等による発生源対策等も必要 <p>【保管手数料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●保管手数料の値上げの検討をすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ●告知等は、現行のスコッチレーン(路面表示)で確認しづらいものを随時更新していく。 ●啓発活動は、夏休み前に市内高校及び駅周辺学区の中学校に放置自転車禁止のチラシを配布する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●スクラップ自転車売却を環境課と協議し、実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●7月初旬、高校及び駅周辺学区中学校へチラシを配布した。 ●路面表示状況の確認を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●スクラップ自転車売却を継続した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●スクラップ自転車売却を継続した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●スクラップ自転車売却の継続
19	伊久身農産物加工体験施設経費	農林課	2,268	1,771	1,801	市が実施 (要改善)	<ul style="list-style-type: none"> ●15年間の実績が見えにくい。目的を絞ったらどうか。一施設が農業振興、都市交流、活性化を担うのは重荷。業務内容も一貫性が感じられない。目的を絞ることにより、修繕費減少につながるのではないか。 ●地域振興の中核施設として継続が必要。ソフト面で地域一体での活性化策が不可欠。中山間地対策として総合的取組み(庁内組織を横断するプロジェクトチーム的対応)を望む。 ●若い人が残れるよう、一定の所得が得られるソフト面での支援もしていかないと先細りになる。 ●コンサルタントを入れる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●施設利用者である「農事組合法人いくみ」と協議しながら必要な支援を行っていく。 ●市全体で、伊久身地域の維持及び魅力創出に取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●農事組合法人いくみとの協議を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●新たな販売場所について、農事組合法人いくみとの協議を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市役所で、週1回販売を継続 ●市産業支援センターを活用し、販売促進を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●保管料の金額の検討 	

事業No.	事業名	所管課	H28		H29 事業費 (千円)	評価結果	委員の意見	今後の取組内容 ※平成26年度現在	取組実績及び今後の取組スケジュール			
			事業費 (千円)	決算額 (千円)					取組実績			今後の取組スケジュール
									H26	H27	H28	H29以降
20	中山間地域交流 促進事業	観光課	3,137	2,939	4,000	市が実施 (要改善)	<p>●市民へのPR不足(フォトゲイニング)。マラソンPRに併せて抱き合わせ告知はどうか。</p> <p>●大会以外の日にもフォトゲイニングが体験できる仕掛け作りが必要</p> <p>●事業実施後の評価が大切である。</p> <p>●IC・空港を最大限活用してほしい。</p> <p>●地域住民の力をこれからも活かしてほしい。</p>	<p>●フォトゲイニングに関する市民への告知については、平成26年度大会の参加申し込み状況を踏まえて、強化策を検討する。</p> <p><平成26年度から新たに始めた市民向け強化項目></p> <p>・SBSラジオによる募集告知 ※FM島田は昨年度に引き続き平成26年度も実施</p> <p>・市内全小中学校に配付される生涯学習情報紙「学びー!!しまだ」による告知</p> <p>・広報しまだへの掲載(平成26年9月号掲載)</p> <p>・市内へのポスター・チラシ配付数増加 平成26年度配付総数:ポスター約50枚、チラシ約2,800枚</p> <p>※マラソン大会参加者に対するチラシ配付は、昨年度に引き続き平成26年度も実施</p> <p>●本事業の実施結果を評価しながら、来年度事業計画を立案していく。</p>	<p>●SBSラジオによる募集告知 ※FM島田は昨年度に引き続き平成26年度も実施</p> <p>●市内全小中学校に配付される生涯学習情報紙「学びー!!しまだ」による告知</p> <p>●広報しまだへの掲載(平成26年9月号掲載)</p> <p>●市内へのポスター・チラシ配付数増加 平成26年度配付総数:ポスター約50枚、チラシ約2,800枚</p> <p>※マラソン大会参加者に対するチラシ配付は、昨年度に引き続き平成26年度も実施</p>	<p>●昨年までに引き続き、ラジオ(SBSラジオ、FM島田)による募集告知</p> <p>●行政広告モニターによる市民への周知</p> <p>●三重テレビ出演による中京圏の参加者募集告知</p> <p>●広報しまだへの掲載(平成27年8月号掲載)</p> <p>●ポスター・チラシ配布(ちらし2,400枚、ポスター40枚)及びマラソン大会参加者へのチラシ配布</p> <p>※近隣市町やフォトゲイシリーズ大会開催実績のある大会への送付</p> <p>●シリーズ大会でのPR活動(土岐大会:11月開催)</p> <p>●SLフェスタ(平成28年10月開催)での体験イベントの実施:12組28名参加</p>	<p>●SLフェスタでのチラシ配架(10月)</p> <p>●しまだ大井川マラソンinリパティの参加者全員(約10,000人)に、チラシを送付(10月)</p> <p>●しまだ大井川マラソンinリパティの大会メイン会場にブースの出展</p> <p>●スポーツエントリートップページに広告バナーの掲出(10月、11月)</p>	<p>●事業継続</p> <p>●様々な広報媒体を活用してPR</p> <p>●アンケート結果を参考に開催時期、場所を含め内容を改善していく。</p> <p>●しまだ大井川マラソン参加者へちらし発送</p> <p>●スポーツエントリーのトップページへの広告掲出</p> <p>●しまだ大井川マラソンふれあい交流イベント会場で出展し、エントリー受付</p>